

戦後（1945～1950） その2

《美空ひばりのレコード製造地が、高規格堤防に》

戦後まもなく、美空ひばりは、8歳にして横浜市の銭湯などで舞台を踏み、12歳にして、日本コロムビアの専属歌手としてデビューします。その歌声は、暗い世相に、希望をもたらし、映画の主題歌に始まり、レコード（注1）として売りだれて大ヒットしていきました。

レコードと蓄音機の仕組みは、エジソンが、1877年（明治10）に発明したもので、日本では、1907年（明治40）、川崎市の多摩川沿いに日米蓄音機製造（株）が設立され、日本で最初にレコードと蓄音機の製造を行ないます。

この会社が、戦後、日本コロムビアと改称し、美空ひばりを専属にしてレコードを製造販売したのです。

最寄り駅の京急大師線港町駅は、1944年（昭和19）まで「コロムビア前駅」でした。港町駅では、発車時に美空ひばりの代表曲『港町十三番地』が流れます。この曲のタイトルは、横浜ではなく、川崎市港町の地名から付けられたものです。ただし13番地は存在せず、語呂合わせで付けられたそうです。

現在、その工場跡地は、多摩川のスーパー堤防（高規格堤防）となり、タワーマンション「リヴァリエ」が建設されています。

なお、1946年（昭和21）にはソニーが銀座において創業し、4年後にレコードと蓄音機をイノベーションしていくテープレコーダーを発明しています。日本コロムビアは、2017年（平成29）8月から、（株）フェイス（注2）の完全小会社となっています。

注1：レコードとは、プラスチック製の薄い円盤に、音を溝状に刻み記録したものです。また蓄音機という装置があり、レコードの溝に刻まれた情報を、レコード針という金属端子を通じて読み取り、スピーカーを震わせて音を再現する仕組みでした。

注2：株式会社フェイスは、1992年（平成4）、京都において、音楽データを配信する企業として誕生し、その後コンテンツ配信に業務を拡大し、関係企業をM&Aなどにより翼下に収め、グループ企業として活動しています。

写真は、①リヴァリエ、港町駅的位置（Yahoo 地図に細見加筆）、②美空ひばりの「港町十三番地」レコードカバー（Youtube teidai からアップされた動画から）、③港町駅構内の様子（HP「磯子 Magazine」掲載写真）、④リヴァリエ（細見撮影）



